

第4回静岡市清水庁舎整備検討委員会

＜議事要旨＞

開催概要	
■日時	令和4年11月18日（金）13時00分～15時00分
■場所	江尻生涯学習交流館1階 いきいきホール
■出席者	委員 恒川和久委員長（オンライン参加）、石垣俊幸委員、伊東哲生委員、黒瀬武史委員（オンライン参加）、小豆川裕子委員（オンライン参加）、田宮文雄委員、堀川渉委員 欠席：牛場智委員、加藤孝明委員、関孝一委員（※欠席委員の意見は資料として紹介）
	事務局 静岡市企画局 松浦局長 企画局 アセットマネジメント推進課 岡村課長、長井室長、藁科主査、井上主任技師 欠席：静岡市企画局 山田次長
■傍聴者	20人程度
■議題	1 開会 2 報告事項 （1）台風15号被害と清水庁舎 （2）委員からの質問等への回答 （3）前回議論の整理 （4）評価の総括 3 議事 検討する整備パターンの整理 4 事務連絡 5 閉会
■資料	<ul style="list-style-type: none"> ・資料1 報告資料 台風15号被害と清水庁舎 ・資料2 報告資料 委員からの質問等への回答 ・資料3 報告資料 前回議論の整理 ・資料4 報告資料 評価の総括 ・資料5 議事資料 検討する整備パターンの整理

議事要旨	
1 開会	
2 報告事項 (1) 台風 15 号被害と清水庁舎	
事務局	(資料 1 について説明)
恒川委員長	台風 15 号の被害対応に際して、庁舎そのものが問題になることはなかったのでしょうか。
事務局	庁舎の被害は、ありませんでした。
石垣委員	支援物資が多く集まった結果、物資を 4 階会議室へ運ぶことが大変であったとの説明ですが、エレベーターの数が足りないために運ぶのが大変だったのでしょうか。 また、会議室が物資の重量に耐えられない懸念もあったとのことですが、会議室自体は重量のある物資を持ち込むための構造になっていないという理解でよいのでしょうか。
事務局	防災計画上、清水庁舎は支援物資を集めることを想定した場所ではありません。今回はご厚意により想定外に多くの物資が集まりましたが、1、2 階に物資を置くことはできないため、それらを 4 階に運ぶ際にその距離の問題が現場サイドの意見でした。 また、実際には問題になりませんでした。4 階は支援物資の耐荷重を想定した床ではないことから、懸念がありました。今後は防災拠点としてあらゆることを想定した機能を備えておく必要性を感じました。
石垣委員	清水庁舎は風水害も非常に気になる場所ですが、市民の方が最も懸念しているのは、地震による津波での被害であると思います。今回の風水害を教訓にして、清水庁舎の災害対応をどう考えるか、全国から集まる支援物資への対応などを考えていった方がいいのでは、という感想を持ちました。
田宮委員	被災者支援窓口を産業情報プラザ内に設置したとのことですが、新型コロナウイルスワクチン接種対応の必要が無かった場合には、清水庁舎内に窓口を設置できたという理解でよろしいですか。
事務局	本来は清水庁舎に全て窓口を設置できることが望ましいと認識しますが、今回は新型コロナウイルスへの対応もあったことから、そのスペースが不足しました。津波被害で 1 階が使用できなくなるようなことも含めて、庁舎においてはある程度スペースが重要であることが分かりました。スペースの可変性も含めて、今回の経験を参考に防災機能の議論につなげていきたいと考えます。
小豆川委員	職員の人員配置について、職員の中にも被災された方がいたと思いますが、BCP の観点から、全員が庁舎に集まらないようなイレギュラーなケースでどういう形で業務継続されようとしているのか、大枠で構わないので教えてください。

議事要旨	
事務局	<p>手元に正式な資料がないため、正確にはお答えできませんが、災害の内容や規模に応じ、災害対策本部を設置するタイミングや人員配置体制は計画で決まっています。清水区役所についてはあくまで区の対策本部であるため、本部と地区支部との連絡が主な役割となります。今回の反省にあるように、地震の場合は24時間体制で勤務することを考えると、機能の可変性に課題があったと考えます。</p> <p>詳細については、機能を議論する際にあらためて説明させていただきます。</p>
<p>2 報告事項 (2) 委員からの質問等への回答</p>	
事務局	(資料2について説明)
堀川委員	<p>改修時の耐用年数が変わる(20年または35年)ことで、改修期間には変化はないのでしょうか(2.5年が3年になるなど)。</p> <p>また、改修期間が2.5年ある中での行政サービスの継続について心配しています。他の自治体の事例もありますが、本当に大丈夫なのでしょうか。</p>
事務局	<p>耐用年数20年の場合には、現在の課題に対応する即時的な改修、35年の場合には長寿命化を意識した改修といったように耐用年数が変わることによって工事の内容は違いがあります。ただし、工事期間については一般的には2.5年程度で、耐用年数が変わることによって大きな差は出ないと想定しています。</p> <p>また、改修については全国でも多くの自治体または民間のビルで実施された実績があり、行政サービスへの影響があるものの技術的にはクリアできると考えています。</p>
田宮委員	<p>改修時の問題点への対応については既に他自治体へのヒアリングを行っているのでしょうか。</p>
事務局	<p>現時点においては、一般情報の収集と整理によるものであり、具体的な課題のヒアリングまでは行っていません。</p> <p>仮に整備方法が改修となった場合には、より合理的で行政サービスに影響の出ない方法を研究することは当然必要になると考えています。</p>
恒川委員長	<p>コンクリートの中性化の進行状況について、平成25年の調査の時点では進行していないということですが、現在も中性化は進行していないと言えるのでしょうか。</p>
事務局	<p>平成25年の段階で中性化の進行があまり進んでいなかったことを踏まえ、現時点においてもその影響は出ていないという判断をしています。</p>
恒川委員長	<p>庁舎建設後、平成25年までの間に中性化が進行していなかったこと及</p>

議事要旨	
	<p>び平成 25 年以降も中性化が進行する条件がなかったことを踏まえ、現在も進行していないという判断であると理解しました。</p> <p>中性化が進行すると鉄筋が錆び、鉄筋が錆びるとそこからコンクリートがボロボロと落ちたりします。海に近いところなどは中性化が進行しやすいため、この庁舎も中性化の進行が懸念されましたが、調査の結果、中性化は進行していなかったため、中性化を問題にして耐震性能の低下を心配する必要はないということです。</p>
<p>2 報告事項</p> <p>(3) 前回議論の整理</p> <p>(4) 評価の総括</p>	
事務局	(資料 3・4 について説明)
伊東委員	<p>案 4 の懸念事項として、庁舎のコンパクト化を進めることができないとあります。もちろん無駄なスペースは必要ありませんし、方向性としてはデジタル化によって市民の方が来庁されるケースも徐々に減ってくると思いますが、災害時に寝泊まりするようなスペースの確保について、平時の使い方を含めて考える必要があります。何が何でも小さくすればいいという意味での「コンパクト化」として誤解されないよう、表現をもう少し考えていただいた方がよいと感じました。</p>
恒川委員長	<p>財政的な観点でのコンパクト化であれば、仮に庁舎が大きいままでも、イニシャルコストがかからない、あるいはランニングコストも電気と水道は通るが、使わないことで光熱水費がかからないなど、イニシャルコストやランニングコストを抑えることができるのであれば、庁舎の面積をやみくもに縮小することには意味がないと思います。むしろ、全体として、他の庁舎等を含めて考えた時に効果があるのか、この庁舎だけを考えた場合、コンパクト化ができないことは必ずしも評価が低くなる理由にはならないかもしれません。</p>
黒瀬委員	<p>前日も申し上げたことなので、繰り返しになりますが、公共交通の利便性の評価について、J R 清水駅と現在地でどちらが高いかと言われれば J R 清水駅の方であると思います。両方を○の評価にしている強い理由があるのであれば教えていただきたいです。</p>
事務局	<p>利用者数の客観的な数値からみれば J R 清水駅の方が現在地（静鉄新清水駅）よりも優位性は高いというのは間違いのないと思います。ただし、清水庁舎単体で考えた場合に利用者は清水区民が大部分であると考え、静鉄の方が清水区内の人口集中エリアを多くカバーしていることから、同程度の評価をしています。</p>
黒瀬委員	<p>おっしゃる通りだと思いますが、バスも含めると、J R 清水駅には直通できても清水庁舎にはいけないものもいくつかあると思います。全体のカバー率を考えるのであれば人口に対する公共交通のカバー率を厳密に議論した上で、本当に◎と○にするほど差がないということを示す必要があると思います。</p>

議事要旨	
恒川委員長	<p>黒瀬委員のおっしゃる通り、特に強いこだわりがなければ、◎と○で差をつけてもよいという気がします。この評価自体が全体に大きな影響を与える話ではないと思います。</p>
田宮委員	<p>庁舎のコンパクト化を進める中で、本庁機能を静岡に集約することが基本的な考え方であると思いますが、実際に本庁舎に人を移すことに実現性があるのか、希望的観測なのか教えていただきたい。</p>
事務局	<p>現計画では、新築の場合は65年以上使うという前提のため、市が原則で示している通り、本庁機能は静岡に集約する計画となっています。一方で、現在も清水庁舎に本庁機能を配置している理由は、現実的な問題として、静岡庁舎もスペースの余裕がなく、周辺施設を借りることで無駄なお金を使うのであれば、清水庁舎の床を利用しようという考え方です。</p> <p>そのため、新築という方針になった場合は現計画通りになりますが、改修になった場合は、どのような理由で改修を選んだのか、その改修の考え方に応じて職員を清水に残すなどの選択肢についても、ご意見をいただきながら整理していくこととなります。本庁機能につきましても原則静岡に集約する方針はありつつも、柔軟な判断も必要と認識しており、その判断についてもご議論いただくことを想定しています。</p>
<p>3 議事 検討する整備パターンの整理</p>	
事務局	<p>(資料5について説明)</p> <p>以下、欠席委員の意見の代読</p> <p>(加藤委員の意見紹介)</p> <p>どの案も一長一短があり、委員会として何を重視するかによって最適な整備方法は変わるとのご意見をいただいております。案1・2については、平成29年度の現計画の検討時からの大きな違いとして、移転先候補地の敷地が手狭になったこと、移転した場合の現庁舎の跡地利用のめどが立たないこと、杭の問題を特に懸念されています。検討にあたってはこれらを意識する必要があること、案4の改修については、改修しても性能は新築と同様にならないことを理解した上で、改修によりもたらされるメリットを明確にすること、現庁舎への愛着については、その意義について十分に共有する必要があることと挙げられております。</p> <p>(牛場委員の意見紹介)</p> <p>公共交通機関の利便性や必要な機能を備えた庁舎を効率的に整備するという観点からは、改修よりも建替の方が設計の自由度が高いことなどから、案2を最適案としております。また、案2については、近隣の市の施設や新病院等との連携により、エリアの中での集積のメリットを活かせることも挙げられております。ただし、市として、人・物・資金と</p>

議事要旨

いった内部資源や移転建替に関わる外部環境が十分に整っていないと判断する場合には、次善の策として、整備に最適なタイミングを見極めるために、一時的な改修を行うことも必要とのご意見をいただいております。

(関委員の意見紹介)

案4を最適案とされております。その理由としまして、ここまでの検討委員会の議論の通り、今、清水のまちは大きく変わっているところであり、社会情勢や環境の変化等に対応するため、イニシャルコストの安価な買収を選択し、15年後、20年後にもう一度考えるというのがよいのではないかと。

また、改修は現庁舎に対する市民の愛着に最も応えることができること、本庁組織の配置についても、集約のタイミングを考慮して判断ができる可能性があること等をその理由として挙げられております。

牛場委員の内部資源や移転建替に関わる外部環境についての判断に関して、内部資源については、第4静岡市総合計画の令和5年度から12年度までの期間は、重要な事業が複数予定されているため、検討にあたってはイニシャルコストについても検討要素として整理しています。

外部環境については、江尻地区のまちづくりがめまぐるしく変化している状況で、江尻地区へ直ちに移転することは得策ではないといった議論がここまでの検討委員会でなされております。これらを踏まえ、案4は牛場委員のおっしゃる次善の策に合致すると整理しています。

恒川委員長

本日、案1から4の中からできれば1つの案に絞っていきたいと思います。

各委員のご意見を伺う前に、案1と案2のどちらがいいのかということについては、現時点では案1は外して案2を採用するというところでどうかで考えます。その理由として、案1と案2はほぼ同条件ですが、案1は案2に比べて敷地面積の問題や地区計画変更のような多大な時間が必要になるということ等もあるためです。現段階で案1を外して考えてよいと思うのですが、いかがでしょうか。

(各委員から異存なし)

それでは、案1は候補から外し、その他の案について検討を進めたいと思います。各委員から順にご意見をお願いします。

伊東委員

案4の4-1がよいと考えます。その理由としては、清水のまちがこれから大きく変わっていく中で、現在働く職員の方のスペースも考慮し、いたずらに移転建替や減築などをせず、今の場所で設備・機器の必要な機能のみを更新し、短めの耐用年数とした上で、10年ぐらい経過した段階で、もう一度見直すことがよいと考えます。

少し話は飛躍しますが、海外ではスタジアムの中、あるいは隣接で庁舎を建設している事例もあるそうです。そういったことを含め、改めて見直すことで選択肢の幅も広がると考えます。

議事要旨

田宮委員

第3回委員会で申し上げた意見から変わっていません。
伊東委員と同じく、大きな投資の判断をするのはもう少し先の方が適切であるという理由から、案4-1がよいと思います。
参考までに、市職員の方に連合自治会長へのヒアリングを行っていた結果では、20人中14人が現在地がよいという意見であり、そのうち、改修がよいという意見が10人であり、過半数が案4-1の意見でした。
改修期間中の業務の問題は様々あると思いますが、他自治体を参考にすることで、対応できないということはないと思います。

堀川委員

先ほど、委員長から案1は除きましようという話がありました。私は案の3についても議論の対象としなくていいと考えます。その理由としては、案3には案2と案4の両方のデメリットがあるためです。
その上で、江尻への移転建替か現地での改修か、現地改修の場合は枝番の中のどれがよいのか、順序立てて考えていきたいと思います。
現地改修については13,000㎡にするために低層棟を解体するのか、あるいは上階を減築するのかといった議論はまだ行われていません。そのため、案2または案4に絞った上で、私としては案4がよいと考え、枝番についてはこれからもう少し話し合っていきたいと考えます。

石垣委員

案2から案4までの中で、ポイントは4つぐらいあると思っております。まずは改修なのか建替なのかということ、場所について清水駅東口なのか現在地なのかということ、改修の場合には規模を減築するのか現状維持なのかということ、耐用年数について長めにするのか短めにするのかということです。
私も場所は現位置の方がよいと思っており、建替ができるのであればその方がよいと思いますが、経済情勢や静岡市が現在抱えているインフラ整備のことを考えると、建替という選択はなかなか厳しいということから、まだ40年ちょっとしか経っていない現庁舎を有効活用する案4がよいと思います。
規模については、人口減少の問題あるいは職員数や維持管理など様々な問題がある中で、コンパクト化という案もありますが、これまでも清水区は会議スペースが少ないなどの様々なご意見がありました。今回の災害を受けて、有効スペースがあるものを減築することはあまり特策ではないと思っております。平時の有効利用のアイデアを考えて、いざという時に活用できるような使い道を考えてもよいのではと思います。
耐用年数については、技術的に長めにとれるのであれば長いスパンで考えた方がよいと思います。スタジアムの中に庁舎機能を持つという話も非常に魅力的なものでありますが、それであれば逆に今からその検討をしてもいいのではと思います。そのため、今の技術で長めの耐用年数で考えられるのであれば、長めとした方がよりコストパフォーマンスが良いのではと考えております。以上のことから、現時点では案4の4-3が最も良いと考えております。

小豆川委員

今年度から委員会に参加させていただき、私自身はそれほどこの分野

議事要旨

に対して専門性がないため、積極的にどの案がよいということはなかなか言いづらい部分があります。

例えば DX への対応など、様々な環境変化の中で、これから庁舎そのものが技術の進展とともに、職員の働き方が変わるなど、効率性や生産性の向上に向けた施策を積極的に講じていく必要があります、今の時点で最適かつ長期にわたって市民から愛される庁舎を作ることは、なかなか難しいという印象を持っています。

様々なご意見の中で、市民の方々の現時点の場所への愛着や清水の歴史や文化といったアセットを非常に重視していることを踏まえ、これから変化の時代を経て、この清水で長期にわたって愛される、市民と職員の方々の協働のシンボルとしての庁舎を考えると、現時点では改修が望ましいと感じています。当初は、移転建替によって完全にリセットする形で、クリエイティブな発想でもって、まち全体を変えるような庁舎整備のあり方があると思っていましたが、やはり、昨今の頻発する災害や著しい技術の進展がある中で、市民感情も重視しながら、今はドラステックに変えていく時期ではないのかなと感じています。

改修の耐用年数については、見極めの期間を考えた上で、案の 4-1 か 4-4 のどちらかになると思っておりませんが、その2つのどちらが良いかというのは、現時点では判断ができません。

案4の改修がよいと考えます。

理由としては牛場委員の考え方に近く、10年後、20年後にはやはり清水駅東口の方が都市の中心としては良いのではないかと考えています。これは、この委員会だけ議論できることではなく、上位の都市計画やこれまで様々な計画の中で JR 清水駅周辺に都市機能を集約するという方針を出してきたものに対して、これを見直す大きな理由は無いと考えています。ただし、これまで議論があった通り、これから清水駅東口のエリアは都市基盤も含めて大きく再整備される可能性が高いと考えており、都市基盤整備が進めば現在のような手狭な土地に無理をして建てるのではなく、最適な位置が出てくる可能性があります。また、駐車場に関しても、大規模な駐車場が近傍に整備されれば、駐車場問題が解決できるかもしれません。今後、そのタイミングを見定めるという意味で、今は現位置で改修を行い、清水駅東口の将来像が見えてきた段階で、長期的に清水駅東口への移転が良いのか、現位置の方が使い勝手が良いのかについて、改めて議論すべきだろうと思います。

改修案の枝番については、また今後議論すればいいと思いますが、今申し上げた理由から、長期間使用するための改修は好ましくないと考えており、比較的短期間の改修により、まずは防災機能や市職員がきちんと快適に執務ができ、行政サービスの提供を支えるための空間を作らざるべきと考えます。

また、私は前回の検討委員会の委員も務めております。その時には多くの皆様が清水駅東口に移転すべきだという議論を強くされていまして、長い意味での市民に対しての説明として、どのような外部環境が変わって、改修することが適切だとなったのかを、きちんと示すべきだと考えています。当時は、当然ながらスタジアムの話もなかったですし、病院の移転も決まっていなかったもので、そのような大きな環境の変化が

黒瀬委員

議事要旨

恒川委員長

あって、今回、改修に至ったという説明をきちんと果たし、その時々で方針が変わっているわけではないという説明をできることも重要であると思います。

皆様、ご意見ありがとうございました。

整理をしていく必要があると思いますが、まず、堀川委員からのご指摘もあったように、案3については言及される方はいらっしゃらなかったということもあり、議論する対象としなくてもいいと考えますが、よろしいでしょうか。

(各委員から異存なし)

各委員から、理由はそれぞれ異なりますが、案4がよいという意見が多くございました。ただし、牛場委員は案2が望ましく、加藤委員は案2もしくは案4のどちらが優れているかはそれぞれメリットとデメリットがあるというようなご意見でした。お二人を除いては案4がよいという意見ですので、まずは案4の方向で委員会の意見をまとめさせていただき、その上で、どのような理由で案4を選択するのかについて整理していきたいと思いますがいかがでしょうか。本日は両委員がご欠席ですが、本日の議論をご説明して最終的にはご理解いただけたと思います。

(各委員から異存なし)

続いて、改めて皆さんのご意見を整理していきます。

案4-1から4-4のどれにするかについて、本日は結論を出さないことにさせていただきたいと思います。技術的なことも含めて色々考え方がありと思いますから、本日の会議後に事務局と専門的なことも含めて案4-1から4-4の比較について整理していきたいと思います。

それでは本日は案4への集約についてまとめます。

何人かの委員の方から、論点を改めて整理をしていただきました。1つ目はJR清水駅の前か現在地かということ、2つ目は新築か改修か、3つ目は規模を大きくするのか、小さくするのかということです。案2と案4の違いについては、最初の2つが反対になっており、案3の現地建替は対象外としたので、現地改修かJR清水駅前での新築の2つの案になっています。

将来的なことを考えるとJR清水駅を清水の中心にしていくという考えは、上位計画も含めて異論はないというご意見が多かったと思います。ただ、現時点で、駐車場不足の問題があり、あるいは将来的にスタジアムが海側にできた場合に、庁舎を駅前に建ててしまっているのかという都市計画的な位置付けの問題等々から、この時点で、駅前広場を潰して庁舎を建てるという選択を考え直した方がいいのではないかと。将来的には清水駅東口への移転を考えたいが、それは現地の周辺環境が整理された段階で判断すべきである、というのが多くの方のご意見であったと思います。

一方で、現庁舎のある場所は市民の愛着もあり、建物も40年しか経過していません。そのため、改修で使い続けるという判断も技術的に可能

議事要旨

	<p>であることを前提に、清水駅前に庁舎を新築するという選択については、もう少し将来のことが整ってからのほうが望ましく、現地での改修が落としどころではないかとの意見が多かったと感じます。</p> <p>その他に補足的にご意見があればいただきたいと思いますが、いかがでしょうか。</p>
<p>田宮委員</p>	<p>清水駅東口への移転については、確かに駅の近くということで良かったと思いますが、現位置が良くないということでもありません。</p> <p>現在地は日の出と江尻の中間にありますし、日の出の方も海洋文化施設の計画など発展が見込まれます。現実問題として桜ヶ丘病院の移転が決まり、敷地面積の問題、駐車場の問題、スタジアムの問題があることから、慌てて清水駅東口に庁舎を建てるということではなく、現在地も悪くないという評価に基づく決定であることを説明すれば納得いただけるのではないかと思います。</p>
<p>恒川委員長</p>	<p>確かに、現在地が悪いということほどなたも発言していません。上位計画としては、将来的な中心地は JR 清水駅の方にすべきとなっておりますが、現在地は日の出と江尻の中間地にあつて、商店街に近く、駐車場があるということも含めて、その場所の利便性に問題があるということではないので、これを活用するというのも1つの判断であると思います。</p>
<p>石垣委員</p>	<p>全体として委員長の意見に賛成です。現位置が日の出と江尻の中間地であり、将来的には江尻地区に集約することも考えていくべきだと思いますが、日の出地区も現在再開発が進んでおり、その中間に基幹的な建物があつた方がまちの賑わいを取り戻すことに大きく寄与していくと考えます。</p> <p>資料5の2ページに、今後の清水都心地区のまちづくりを考えると長期的には現庁舎の位置は再考の余地があるとありますが、ひとつの駅の周辺に一極集中させるのではなく、江尻と日の出を繋ぐウォーターフロントの幅を持った位置として市役所があり続けることが大事であると思っています。他都市でも市庁舎が別の場所に移転したことで元の場所が寂しくなったという話を聞きます。今の位置にあることでこれまでの流れを踏まえた発展に繋がっていくと思います。</p>
<p>黒瀬委員</p>	<p>長期的な市役所の位置に関して様々にご意見があることは理解しています。私も日の出地区に長く関与してきており、非常に愛着はありますが、本検討委員会の序盤で申し上げたように、人口規模や、もっと長期目線を見た場合に、元々の2つのまちの中間地に庁舎が位置するという発想が、これからの50年、100年を見た時に本当に適切なのかどうかは考えるべきであると思っています。元々、向島と言われる砂州のところに新しいまちを作つたというのが、今の市役所近傍の長い目でみた歴史なのかと考えています。</p> <p>それから、中長期的な行政拠点をどこに置くのかというのは、この委員会だけで決められることではないと考えます。総合計画や都市マスタープラン、立地適正化計画の策定過程で様々な定量的な判断のもとで実施されてきた背景がありますので、今の時点で改修にすべきか新築にす</p>

議事要旨

恒川委員長

べきか、どこが適切なのかというのはこの委員会の範疇だと思いますが、中長期的にどこに区役所を置くべきなのかというのは、この委員会だけで議論できることではないと考えます。

おっしゃるとおりだと思います。

そういう意味では、長期的に見た時に判断ができるという理由から、多くの委員が案 4-1、4-2 という短期的な改修を推されたのだと思います。

一方で、別の論点を申し上げると、当初は無かった案 4-3 と 4-4 は私が追加提案させていただいたものです。現在の建築技術では新築に損色ないような改修が場合によっては可能であることもあり、これからの行政サービス・市役所機能にふさわしい、市民の新しい愛着に繋がるような庁舎を、改修でも実現できるのではないかと考えたからです。そのためには、場所に関する議論はさておいて、耐用年数が 10 年だけの改修は非常に中途半端であり、最低 20 年ぐらいは持たせる必要があると感じます。建物の使用期間が現在 40 年だとすれば、あと 30 年、40 年使うぐらゐの改修も大きな投資をせずにできるのではないのでしょうか。ただし、それが無駄だという判断もあるかもしれませんので、少し精査が必要であると考えます。

以上から、私自身は案 4-3 や 4-4 がよいという意見です。

堀川委員

時系列に色々な話をのせていくと今回の結論が導き出されると思っています。第 1 回の検討委員会では、ポストコロナ時代の庁舎のあり方として、庁舎の DX やデジタル化を考えた上で清水庁舎の整備をどうしていくかという論点でお集まりいただいていると思います。その中で、今までなかった改修案が出てきました。

さらに、各案のメリット・デメリット、将来あるべき姿について検討を進めてきました。私としては、先ほどの黒瀬先生のご意見に賛成です。江尻地区がどういうまちになっていくかを見据えた上で再検討することがよいと思います。

以上のように時系列で委員会の意見を整理していくと最終的にこの結論になるという流れでいいのではないかと思います。

伊東委員

前回の庁舎建設検討委員会に続いて参加させていただきましたが、前回は前提条件として現庁舎の位置に桜ヶ丘病院がくるという大前提があり、庁舎を JR 清水駅前に移転するという議論になりました。そのため、当時とは条件が変わってきているという前提で、黒瀬委員からお話があったように、将来的な上位計画との整合性は当然あるとは思いますが、私たちができることは、将来の選択肢の幅を広げるということであると思います。

この先、高齢化が進行すると、公共交通機関も含めて移動が課題になってくると思います。徒歩以外にも、シェアサイクルや将来的にはゴルフ場にあるような電動カートがまちの中を走ることが当たり前になるかもしれません。そうすると日の出と江尻の間の移動は苦ならないと思うので、そういった将来の選択肢の幅を広げるためにも案 4 でよいのでは

議事要旨	
恒川委員長	<p>ないかと考えております。</p> <p>自動運転での移動も遠くない未来にあるかもしれませんし、DXによって市民の方が区役所に行くこと自体がなくなり、災害時の利用に限られることになるかもしれません。逆に、リアルなコミュニティを作ることの必要性をもう少し議論していくことになるかもしれません。</p> <p>それでは、今日の時点で、案4の改修案を委員会の結論とさせていただきたいと思います。案4の枝番の選択肢につきましては、引き続き内容を精査した上で、次回以降、ご議論いただきたいと思います。</p>
事務局	<p>委員の皆様、ありがとうございました。</p> <p>本日、案4まで絞っていただいたということで、これまでの方針であるJR清水駅東口公園の移転計画から現在地での改修ということになり、市民の皆さん大きな影響のある判断となります。これにつきましては、次回の委員会で、なぜ改修案になったのか、これまで皆さんからいただいたご意見を事務局の方でまとめ、その結論に至った理由を市民にどう説明するのか、その案をお示しし、第5回以降で市として意思決定をした上で、パブリックコメントで市民意見を聞いていくという手続きになります。</p> <p>これまでにいただいた多くのご意見を整理することにより、改修の耐用年数を20年とするのか35年とするのか、今の課題に即時対応するような改修なのか、長寿命化の視点を入れるのか、コンパクト化をどうするのかといったところは、本日までのご意見をまとめるとある程度答えも出てくると思います。第5回では結果として枝番を絞っていくことを想定しています。その議論が整理できるような資料を準備し、委員の皆さんに確認していただくということで、進めさせていただきたいと思います。</p>
4 事務連絡	
事務局	第4回目の委員会は、12月12日に開催します。
5 閉会	